

令和元年度 支え合いの地域づくり推進モデル事業 県社協 HP 掲載用報告書

社協名	逗子市社会福祉協議会
対象となる実践・テーマ	(1)市町村社協の総合相談・生活支援機能の強化 (2)市町村社協のボランティアセンター機能の強化（日常生活圏域等における住民主体の福祉活動、ボランティア・市民活動の推進） (3)災害時支援を視野においた関係機関・団体との連携・協働の推進 (4)地域福祉活動計画、社協発展・強化計画等の強化、充実 (5)市町村域を越えた広域的取り組み及び支援の推進 (6)その他（福祉施設との連携による地域福祉活動の推進等）
※いずれか1つに○をつける。	
事業名	地域福祉推進事業 福祉教育

事業の概要

住民主体の地域活動や市民活動を福祉の取り組みと連動させて推進していくに当たり、令和元年度は「当事者性」（自分ごととして考えること）をキーワードとして、各事業展開を行いました。

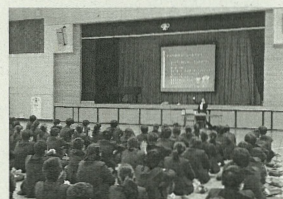
①「第16回福祉教育セミナー」を学校教員・地域住民向けに開催しました。

パネルトークでは、市内で地域活動や市民活動を行っている方、また中学校教員から自身の活動から見える課題等について、自分ごととして捉えるためのきっかけや、気づきについてお話をいただきました。その後、原田正樹先生（日本福祉大学）からの基調講演「地域共生社会における当事者性を考える」を行いました。



最後にグループワークで参加者同士の語り合いの場を持ちました。参加した方からは、「色々な実践のお話をより深く聞けた。お互いが認め合い、同じ方向を見て歩きたいと強く感じました。グループワークでは、“当事者性”を自分の中に落とし込める時間となった。」という感想が寄せられました。難しい検討テーマであった様子だが、改めて自分ごととして考えること、また当事者性について深められた一日となりました。

②中学生を対象とした福祉学習を「福祉教育こころチーム」（社協を事務局とした有志の専門職や地域住民等から構成）が、公立全3校の1・2・3年生に向けて授業を行いました。「排除のない社会」（いじめのない学校生活）を目標として、様々な生きづらさを抱えた人の存在を知ることや、気持ちを考えること、自分自身との相違点や共通点を見出すこと等についてのプログラムを検討作成し、実施しました。1年生には発達障がい、2年生にはLGBT、3年生には認知症を具体事例として、疑似体験やDVD視聴、ワークシートを使用して、3コマの授業を行いました。（*2年生は理解を深めるために教員向けに実施。生徒向けは、休校対応により、急遽中止）



授業を受けた生徒からは、「自分と違う人もたくさんいるのが当たり前で、たくさんの違う心を持った人と関わって、私もたくさんのかんことを想像して、考えていきたい。」という感想が寄せられました。

③子育て世代を対象にして、福祉の意識醸成を図るため、「地域の子育て活動」冊子を作成しました。冊子では、活動者の思いと共に、活動と地域との繋がりを取材してまとめました。

今後さらに、これらの事業を連動させながら、地域福祉の関心層を増やしていくため、地域活動者を巻き込んだ啓発や福祉教育の検討会を行っていく予定としています。

